

熊本大学広報誌

# 熊大通信

vol.

36

2010 SPRING

特集Ⅰ **熊本大学の  
エコロジーチャレンジ**

特集Ⅱ **地域の技術科教育を支える  
パートナーシップ**



国立大学法人  
**熊本大学**

Kumamoto University



## SCENERY OF CAMPUS キャンパスの風景

### 理学部 1・2号館

平成18年7月にPFI事業により大幅な改修が行われた理学部1・2号館。広々とした中庭では、学生たちによる理学部七夕祭りも開催されている。

# 熊大通信 vol. 36

2010 SPRING



## 熊本大学広報誌 熊大通信

\*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学  
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1  
Tel.096-342-3119  
Fax.096-342-3007  
sos-koho@jimui.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会  
矢加部 和幸／委員長・政策創造研究教育センター  
溝淵 園子／文学部  
河野 順子／教育学部  
田村 耕一／法学部  
高宗 和史／大学院自然科学研究科  
田中 智之／大学院自然科学研究科  
太田 訓正／大学院生命科学研究部  
首藤 剛／大学院生命科学研究部  
西村 兆司／企画部広報戦略主幹

【制作】 株式会社カラーズプランニング

## CONTENTS

- 03 新年度 学長インタビュー 四つの柱に大きな風を
- 05 特集Ⅰ 熊本大学のエコロジーチャレンジ
- 11 研究室探訪 今動いている事件に焦点をあて  
“現場主義”の研究スタイルを追求  
法学部 法学科 岡田研究室
- 13 特集Ⅱ 地域の技術科教育を支えるパートナーシップ
- 15 国際交流 インタビュー  
「一人でも多くの人を助けたい」世界を駆ける国際救援活動  
熊本赤十字病院 岡村直樹さん
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 Information

表紙／工学部2号館屋上に設置されたソーラーアーチ



国際学長フォーラム



熊本大学設立60周年記念式典

# 新年度 学長インタビュー

The interview to president of Kumamoto University

「国際化」「教育の充実」「世界最先端の研究」「地域貢献」

# 四つの柱に大きな風を

熊本大学第12代学長に、谷口功・前工学部長が就任して1年。

「明るく、楽しく、元氣よく」という口癖も学内外に浸透してきた。折しも法人化に伴う第1期中期目標・

計画が終了して、新年度から新たに第2期が始まる。谷口学長に話を聞いた。取材・文／「熊大通信」編集委員長・矢加部和幸

「早いですね。あっという間に過ぎました」。「1年を振り返って」という質問に間髪を置かず答えが返ってきた。「何とか自分に及第点は出せるかな。第1期の最終年を無事終えてソフトランディングできたし、第2期の中期目標・計画もまとめることができました。そして熊本大学設立60周年という記念すべき年を、式典をはじめイベントなどで祝うと同時に、熊本県民にアピールすることができました。もちろん副学長をはじめとする教職員の大きな

支えがあつてです」。

学長就任時から言い続けているのは「国際化」「教育の充実」「世界最先端の研究」「地域貢献」の四つ。熊大が地域や国際社会で、その役目を果たすと同時に存在感をアップさせるための谷口プランの柱だ。

■留学生を300人から500人に、そして将来的に1000人に増やす 「この1年で約100人増えました。担当の副学長を設け、アジアを中心に交流協定校などを100校以上

に増やし、国際フォーラムなどを開いてきました。アジアで熊大のブランド力が大きくなってきたことを実感しています。が、南米やアフリカなどにも目を向けたらいい。キャンパスにいろいろな国の留学生が増えることで、学生もいい影響を受けるはずだ」

■国際社会で活躍し、力量のある学生を育てる 「学生に元気になって欲しい。いろいろなことに自ら挑戦し、課題を突破できる力を身に付けてもらう

ために、専門教育はもちろん教養教育の充実を図りたい。一言でいえば社会の役に立つ人材(財)をどう育てるか。さすが熊大卒業」と社会から褒めてもらえるような卒業生を増やしたい。23年度から新しいスタイルで教養教育ができるように詰めているからいいです」

■世界を視野に研究拠点の充実を図る 「エイズや発生医学、衝撃波といった世界最先端の研究をはじめ、多彩な研究が熊大の力を源とすることは

もちろんですが、そうした研究環境の中で学生が学ぶということが大きい。誰もやってない研究をやる、新しい価値を創造するという雰囲気の中で、未来を担う研究者が育っていくのです。同時に新たな研究の芽を育てることも重要。研究は激しい競争の中にあるので、常に将来への可能性を探っておかねばなりません」

■熊大の財産である「知」を地域に還元する 「研究面で地域の役に立ち、地域が求める人材を育成したい。地域貢献の基本は研究と教育であることはもちろんです。同時に熊大の『宝』を生かした地域に親しまれる事業の強化も課題です。まちなか工房や薬学部の実験室の充実を図ると同時に、五高記念館を活用した滞在型セミナーの開催も面白いと思います。また、県内の各大学などをつくる高等教育コンソーシアムも活性化したい」

アイデアと熱い語り、そして言い出したことはすぐやる実行力。学内のバランスをとりながら思いを実現させていくのは骨が折れますが、それだからこそ総合的に幅広くいろんなことがやれるという側面もあります。本学の『宝』をもっともっと活用して世界に存在感を示したい。熊大もこれから新たな時代に入っていきますが、最高責任者として働ける機会を与えられたことが、学長になって一番よかったことですね。

新年度、厳しい国の予算が、熊大の経営にも影を落としていいる。運営交付金は毎年1%カットされてきましたが、新年度は1・8%。間接経費のカットと合わせれば約4億円の減少です。熊大の予算約4・50億円のうち人件費や経常経費などをのぞいた運営経費は、25〜30億円ですから、4億円のカットは痛い。無駄を省くのはもちろんですが、あらゆるところを

見直してきました。しかし、いくら財政が厳しいといっても熊本大学として果たさねばならない社会的な役割と責任があります。厳しいからこそやりがいも大きい」。

とにかく毎日忙しい。午前9時から夕方6時過ぎまで会議や打ち合わせ、来客対応などが分刻みで入り、少しでも空き時間ができるとすぐ別の用件が入る。夜は連日、学外の会合などで、全くの休日はあっても月1回。目が回るほどの忙しさだが、口癖通りの「明るく、楽しく、元気よく」。自他ともに認める「しゃべり出したら止まらない」熱いトークも健在だ。

しかし、学長として振った旗が学内でいまだ大きな風を起こせないでいることに少なからず悩みもある。「スピード感をもっと出したい」。第2期中期目標・計画が完了する6年後、熊大がどう変身しているか。内からは「誇りに思える大学」、外からは「あこがれられる

大学」を目指す谷口学長の指導力に期待したい。

プロフィール  
熊本大学長 谷口 功 (たにぐち いさお)

1946年奈良市生まれ。東京工業大学大学院博士課程修了後、1977年熊本大学工学部助手。1990年教授。2002年から工学部長を3期務め、2009年4月に学長に就任した。専門は工業物理化学(電気化学)。趣味は旅行。「空飛ぶ電気化学者」と呼ばれていたほど。出かける事やいろいろな人と会う事は全く苦にならない。誰とでも15分話せば、全て友達。「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」「有言実行」は大好きな言葉。



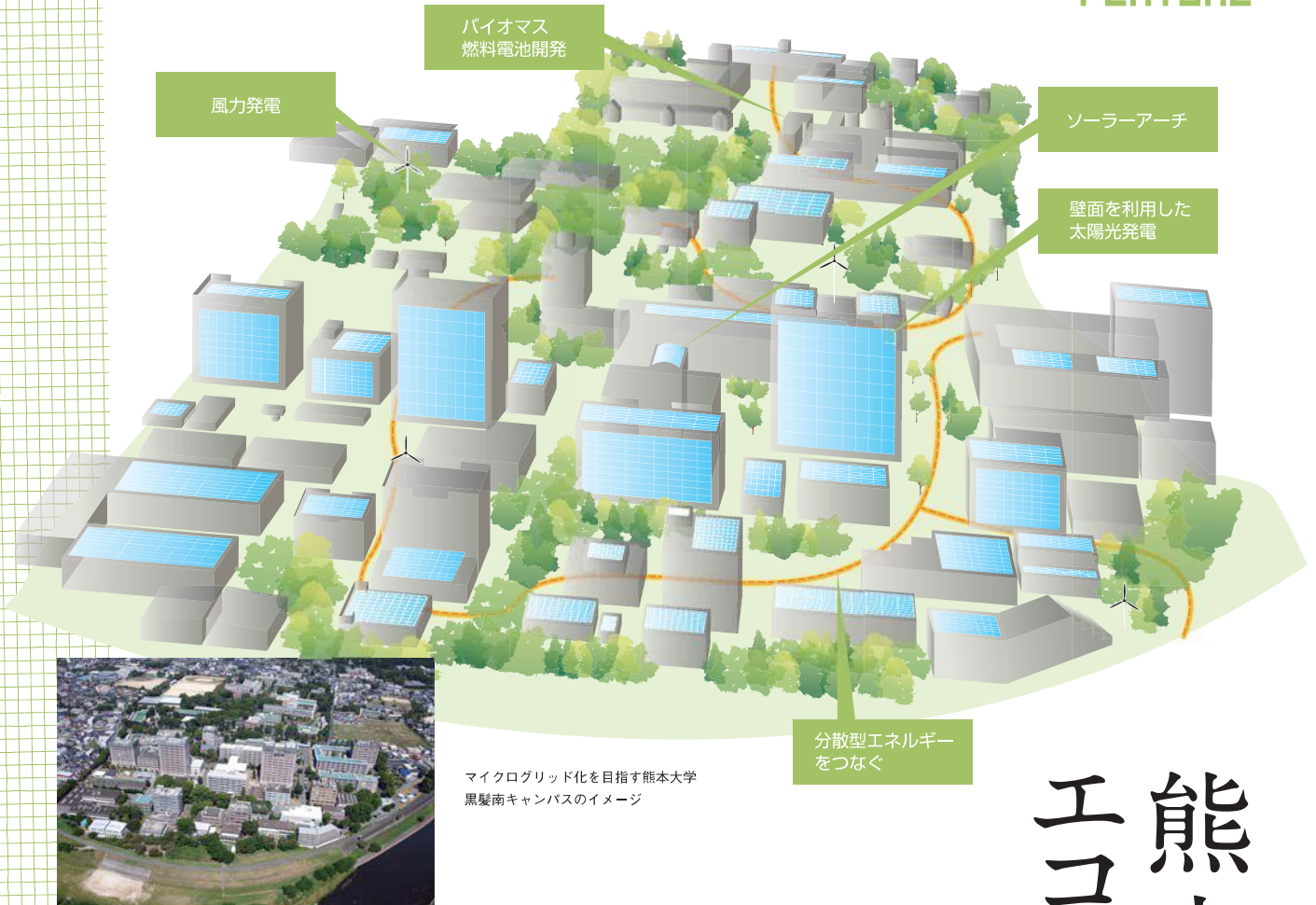
可能性を生み出す  
「バルスパワー」



世界水準の生命科学研究  
「発生医学研究所」



日本の大学で唯一の  
「エイズ学研究センター」



# 熊本大学の エコロジーチャレンジ

eco CHALLENGE

キャンパス内を  
社会実証フィールドに、  
各分野の研究者が  
力を合わせて

熊本大学では、学内の省エネルギーや環境美化などの推進はもとより、キャンパス内を利用した、環境技術の開発・実験の取り組みが始まっています。

そのために、工学部や大学院自然科学研究科を中心に、さまざまな研究を融合させ、環境技術の飛躍的な進化へつなげようと活動しているのが「熊本大学エコ・エネ研究会」です。

「低炭素社会実現に貢献するためには、新しい電源を研究したり、省エネ化の技術を開発したりすることも大切ですが、その技術を組み合わせることで社会システムも考えなければなりません」と、代表の両角光男工学部長は話します。

身近な自分たちのキャンパスを社会実証フィールドとして、技術実証のプロ

eco CHALLENGE

プロジェクトを複数展開し、2年後にはエネルギーの供給と需要の最適制御システムを開発稼働させる計画です。

キャンパス内を  
マイクログリッド化する

今、世界的に注目されているスマートグリッド（IT技術を駆使し、電力の利用を最適にするためのシステム）のミニ版を黒髪南キャンパス内に実現する、キャンパス内マイクログリッド化プロジェクトはこの一環です。



「キャンパス内の実験を産業化して社会に広めたい」と話す両角光男工学部長

## 電力の需給バランスを最適に

一般に電力料金は、年間で最も多い消費電力を基準に、基本料金や従量単価が決められています。そこで、使用量が跳ね上がる夏季に消費電力が想定していたピークを超えないように制御をしたり、季節や昼夜の違いなどによる使用量の変



キャンパス内マイクログリッド化を説明する田中昭雄特任教授

田中昭雄特任教授は、「太陽光発電などによる発電量と、電力需要を予測したデータを仮想的にシミュレーションし、既存の電力供給インフラを上手に使用して、効率的にエネルギーを生産しながら消費する制御システムを開発しようというものです」と説明します。  
具体的には、キャンパス内に太陽光発電や風力発電、燃料電池などの電源を生む設備を導入し、既存の電力供給システムとのスムーズな統合を進めています。

## 「見える化」で省エネを意識

キャンパス内のCO<sub>2</sub>排出量(電力使用量)の「見える化」にも取り組んでいます。



照明を自動調整し電力の供給バランスを最適化(工学部2号館)

このように、電力の需要予測と発電の情報を、コンピューターとインターネットを駆使して、電力の需要と供給をきめ細かく自動調整し、需給バランスを最適化するシステムを開発しています。  
不足する場合は、廊下や教室の照明を落とすなど、利用の制御を行っています。すでに工学部2号館では、30分や1時間先の電力使用量を予測するシステムを導入しています。

動を平準化したりできれば、電力コストを抑えることができます。

施設ごとの消費電力を過去のデータを基に予測し、ピーク時には太陽光発電など分散型電源の発電でカバー。それでも不足する場合は、廊下や教室の照明を落とすなど、利用の制御を行っています。

す。掲示板やウェブ上で、電力使用量の数値をリアルタイムで「見える化」ように可視化することで、電力を使う一人一人がエネルギー消費を実感することになり、電力使用の削減につながるといいます。



「見える化」でエネルギー消費を実感 ※画面はサンプルです(施設部提供)

このほか、太陽光電池や風力発電を利用した、ビニールハウス環境制御システムや、日射遮へいツールなどの、新環境技術開発と実証も行っています。  
「電力の使用状況のデータを、インターネット上などで共有し制御するエネルギーマネージメントは、今後はもっと社会に定着すべきです。そのためにも、この実験で開発した技術を、将来的には産業化して社会に広めていきたい」と、両角工学部長はキャンパスを利用した実験について語ります。

## バイオマス燃料電池の開発

研究会の事務局を担当している、成松宏太陽電池寄付講座客員助教は、「それぞれの研究の取り組みを発表する講演会などを企画し、さらに研究内容を共有することで、高い実験成果に結びつけていきたい」と話しています。

マイクログリッド化によって、太陽光発電や風力発電など、自然エネルギーの発電量調節が重要になりますが、天候に左右されにくい新エネルギーである、バイオマス燃料電池の開発も期待されています。

研究グループ代表の富永昌人助教は、「植物などに含まれている糖を使って発電するので、安全性が高い上、もみ殻など農業残渣(ぞんさ)や林地に放置される残材などをエネルギー源として利用できます。熊本にはたくさんあるので、これら廃棄物を利用すれば環境保全にもなります」といいます。

現在は、発電性の高い電極を独自に開発し、携帯電話の充電などに使えるような実用モデルの作成を進めています。

eco  
CHALLENGE

## 「電チャリプロジェクト」スタート!

キャンパス内でつくられた電力エネルギーを活用し、低炭素社会モデルの実験・実証をするのが、3月9日から始まった「電動アシストコミュニティサイクル実験(電チャリプロジェクト)」です。

黒髪北キャンパス門衛所向かいに設置された、充電設備を兼ねる専用駐輪所で管理されている10台の電チャリ(電動アシスト自転車)を用いて、約1カ月間にわたり試行実験を実施。



専用駐輪所に並ぶ実験用電チャリ

モニターに選ばれた30人の皆さんが、通勤や近隣移動などに電チャリを共同利用し、そのデータを基に「充電式集合駐輪システム」の設置方法や「コミュニティ電チャリシステム」の運用方法について検討がなされます。

学内の太陽光電池で発電した電力を使ってバッテリーを充電する、電チャリの共同利用システムの構築を目的としており、キャンパスをフィールドにして社会実験を行い、その実現の可能性を探っています。環境に優しく、健康のためにも良い自転車の、自発的な利用促進につなげるのがミッションです。



### 電チャリ利用マニュアル

※利用手続きや照会などにはIDが必要です。

- ① 【予約】ホームページ上の「電チャリ予約システム」から、利用可能な電チャリがあるか確認して予約します。予約は1時間単位。
- ② 【貸出】予約時刻になったら専用駐輪所に行き、予約したナンバーの電チャリの鍵とバッテリー、記録測定用のGPSを受け取ります。
- ③ 【返却】返却時刻になったら、専用駐輪所に返却します。
- ④ 【CO2削減量診断】利用中の移動距離や、その移動を自動車で行った場合と比較したCO2の削減量、消費カロリーの増加量などに関する情報を、ホームページで見ることができます。低炭素社会への協力や健康管理のための指標となり、モチベーションも高まります。



モニター同士協力し合って、CO2削減を目指す



電チャリと同じ赤色の看板が目印



専用バッテリーは使った度に充電





工学部2号館屋上に設置されたソーラーアーチ

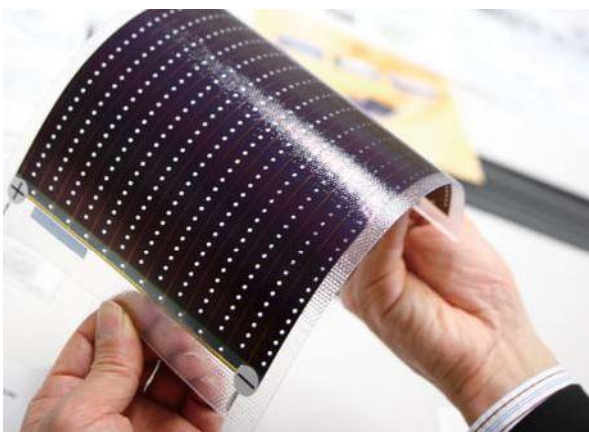
eco CHALLENGE

## フィルム型太陽光電池の適用拡大

フィルム型太陽光電池を用いた、ソーラーシステムの実証にも取り組んでいます。

現在、一般家庭の屋根に取り付けられているのは、ほとんどがガラス型結晶系の太陽光電池です。このガラス型に比べ、フィルム型アモルファス（非結晶系）太陽光電池は、薄くて軽量というのが特徴です。しかも、自由自在に曲げられます。

この軽い、薄い、曲がるというフィルム型ならではの特性を生かす、ソーラーアーチとソーラーシエルフの実験・実証が進んでいます。



薄くて軽いフィルム型太陽光電池

eco CHALLENGE

## 既存建物にフワツとかけるソーラーアーチ

ソーラーアーチは、フィルム型の軽く曲がる特性を生かし、既存のビル屋上などのスペースを、発電に有効活用しようというものです。一般的にガラス型のソーラーをビルの屋上に設置する場合は、屋上防水層の改修など大掛かりな工事が必要ですが、熊本大学のソーラーアーチは、既存建物屋上外周部のパラペット（防水層端部の低い手すり壁）に装着するので、付帯工事がほとんど必要なく、建物本体への負荷も軽減することができます。

建築学科の田中智之准教授は、「比較的簡単に短期間で設置できるのが特徴です。デザイン性に配慮し、イメージとしては、布をアーチ状にフワツとかけた感じだ」と、デザイン性もフィルム型の普及には欠かすことのできない大事な要素だといいます。

## 手軽に取り付けられるソーラーシエルフ

ソーラーシエルフは、フィルム型の軽さを生かして、建物の壁や軒庇などに手軽に取り付けられ、太陽追尾性能を持ち合わせ、効率の良い発電を見込めることが特徴です。

## 2軸追尾型（センサー付き）、2軸追尾型

（軌道固定）、固定型のそれぞれ異なる追尾性能を持つソーラーシエルフ9基（3基1セット）を工学部1号館に取り付けて、それぞれの発電効率を検証するとともに、耐久性、コスト、安定性など実用化に向けたテストを行っています。



工学部1号館に取り付けられたソーラーシエルフ



デザイン性が普及につながると話す田中智之准教授



# 環境サークル「リクラブ」。エコを身近なところから実行

## 卒業生の不用品を 新入生の宝の山へ

熊本大学では、学生たちも環境問題に対して、「自分たちで何か役立つことをしよう」と行動しています。その一つが環境サークル「リクラブ」(部員32人)です。

「リクラブ」が発足したのは1996年。毎年春の卒業シーズンになると、卒業生の転居にともない不要になった家具や家電などが多く捨てられ、問題になっていました。これら不用品を再利用し、宝の山へに変えようと思いつた

のが発端でした。

## 「みんなで楽しくやろう」 伝統の精神を受け継ぐ

「ジャンケン・ポン」。楽しそうな笑い声とともに、弾んだ掛け声が響きます。負けた人がリヤカーを引き始めました。

こうした「リクラブ」のメンバーたちが、卒業生の不要家具や家電をアパートに引き取りに行く様子は、毎年2月ごろになると、キャンパス内や周辺の細い路地で見られる風物詩になっています。

「回収は大変ですけど、みんなでやると楽しいですよ」と、工学部2年生で「リクラブ」副部長の山田隼輝さんは、リヤカーを押しながら明るく話します。「何でも楽しんでやろう」という「リクラブ」伝統の精神が、脈々と受け継がれています。

## 「For You市」開催 生活用品を安値で販売

回収した不用品はきれいに清掃し、家電などは動作検査を。蘇った洗濯機や冷蔵庫、テレビ、ベッド、机などは、毎年3月、

黒髪北キャンパス内の学生会館で開かれる「For You市」にずらりと並び、その個数は100を超えます。何ととっても一番の魅力は価格の安さ。一人暮らしを始める新入生に必要な生活用品が、すべて1万円以下の安値で販売され、新入生ばかりでなく黒髪地区の住民も参加し大好評です。

このほか、4月の「エコフリーマーケット」では、エコバック作りのボランティア活動、5月の「環境フェスタ(ゴミゼロ)」では学内のゴミ拾い、11月の「熊祭祭(学園祭)」ではリユース食器の利用推進などの活動も行っています。



新入生のためにたくさん回収しようと張り切る「リクラブ」の部員たち



階段を運ぶのは腕の見せどころ

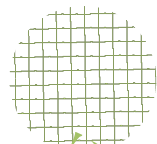
リヤカー引きはけっこう楽しい



回収された宝の山



大きな家具や家電は、「リクラブ」のメンバーが配達まで行っている



# 弁当容器のリサイクル活動を通じ学生の「人間力」を育む

## 年間2万4000個を 新しい弁当容器に再生

「熊本大学生生活協同組合」は、学内のゴミ削減と地球環境保護のためにさまざまな取り組みを行っています。その一つに、学生と一体となって取り組んでいる弁当容器のリサイクル活動があります。

生協のオリジナル弁当は、学生会館シヨップなど3カ所で販売されています。その数は一日に500個ほどに上り、そのすべてにリサイクル可能な容器が使われているのです。

食べ終わった後、弁当容器の表面フィルムをはがし生協レジに返却すると、弁当容器リサイクルスタンプカードにスタンプを1個もられます。カードにスタンプが10個たまると、100円ゲットできる仕組みです。

また学内各所に弁当容器専用回収ボックスが置かれ、容器の回収率アップが図られています。ちなみに、2009年度の回収個数は年間約2万4500個。回収



ゼミのみんなで、スタンプをためていることも多いそう。スタンプ10個で100円に。

学内各所に設置されている「弁当容器専用回収ボックス」



された容器は、再生センターに送られて粉砕された後、新しい弁当容器として生まれ変わります。

## リサイクル活動の核を担う学生たち

この弁当容器リサイクル活動を生協とともに支えるのが、学生でつくる生協組織部です。

部員たちは、年間を通じて弁当販売の場でプラスチックを持ちリサイクルを呼びかけ、実際に弁当容器の表面フィルムをはがしてリサイクルの方法を実演するなど、積極的な推進活動を行っています。

「熊料祭」では、模擬店を出す各団体にリサイクル容器を利用してもらうことで、来場した人たちにリサイクル容器をPRし、環境意識の向上を図っています。

「熊本大学生生活協同組合」専務理事の深見隆久さんは「学生たちは、どうすれば人々に環境保護意識が浸透するのか、試



深見隆久専務理事。「学生に在学中、さまざまな体験を積んでほしい」と語る



昼休みの生協で、リサイクルを呼びかける「生協組織部」の矢倉裕也さん

行錯誤しながら啓蒙活動を行っています。社会に出る前の4年間でそのような実践を積み重ねることは、学生の成長を後押しする素晴らしい機会だと思っています」と語ります。

## 学生と教職員が協働で エコキャンパスづくり

熊本大学では「熊本大学環境方針」を2006年に制定し、環境保全や環境の改善・創造にあたっています。学生と教職員が協働で、環境に配慮した「エコキャンパス」の実現と持続的な循環型社会の構築を目指す全学的な取り組みです。

今特集では、キャンパスを一つのまちと考へて、低炭素社会システムの実現を目指すプロジェクトを中心に取上げました。

キャンパス内のマイクログリッド化、バイオマス燃料電池の開発、電チャリプロジェクト、フィルム型太陽光電池の適用拡大などは、将来を見据えた環境の改善・創造の代表的なものでしょう。

卒業生の不要となった家具や家電を新生に再利用してもらう環境サークル「リクラブ」や、弁当容器のリサイクルを推進する「熊本大学生生活協同組合」は、身近なところから環境保全に取り組む象徴といえます。

このように熊本大学は、学生と教職員がエコロジカルなキャンパスづくりにさまざまなかたちで挑戦しています。

# 研究室探訪

Laboratory Exploration



## 岡田研究室

法学部

法学科

刑事法学専攻

岡田研究室では、研究テーマをゼミ生みんなで話し合い決めていきます。現在の研究テーマは「少年非行」。前年度は、福岡県で一家5人が乗った乗用車が追突された惨事で、危険運転致死傷罪が適用されたこともあり、ゼミ生の関心が高かった「交通犯罪」が研究テーマでした。薬物犯罪、経済犯罪、外国人犯罪など、今の時代を象徴し刻々と変化している犯罪問題が、これからの研究テーマ候補に挙がっています。

人の自由を奪う刑罰は極力使わないほうがいい、というのが基本スタンス。刑罰よりもっと良い方法はないのか、刑罰を使うにしても最低限踏まなければならない手続きはどうあるべきか……。犯罪・非行への本当の対策を求めて、ゼミ生らは真剣に取り組んでいます。

「現場の中に、次なるヒントがあります」と、岡田行雄准教授は話します。「法律の本に書いてあるのは一部、マスメディアの情報も一面にすぎない。表に出ない本当の問題を、現場に足を運んで掘り起こすことが大切です」と、「現場主義」の話が続きました。

今年1月、ゼミ生は人吉市にある「人吉農芸学院(少年院)」を訪ね、実際に少年たちが施設内でどのような生活をしているかに触れました。敷地内には大型特殊免許を取得するための練習コースなどがあり、少年を更生させるために、少年院ではさまざまな取り組みが行われていることを肌で感じる事ができ、あらためて少年非行に対する現場の対策に理解を深めたといえます。

また、現場で実務を担う方々のお話をじかに聞くことができたおかげで、いかに自分が偏見にとらわれているか、そして少数者や弱者の立場で考えることがどれほど重要かということに気が付いたという学生もいます。

現場に出掛けて現場を感じることで、問題の本質を見抜く力を付けることに重点を置く岡田研究室。その学ぶ過程で企画力や交渉力なども身に付き、社会に出てから役立つスキルも培われているようです。“現場主義”という独自の研究スタイルを追求しています。

刑法や刑事裁判、刑罰はどうあるべきか、少年院と刑務所はどう違うのか・・・  
犯罪・非行に関係するあらゆる問題について、判例や文献の分析法、論理の組み立て、議論による課題の発見法などを身に付けるため、机上の勉強だけでなく実際に関係施設に足を運び、現場の人に直接話しを聞きながら、まさに今“現場”で動いている刑事事件を研究している、岡田研究室を訪ねました。



- ↖ それぞれ研究した内容を発表し、課題を見つけるためのミーティング
- ↑ 岡田准教授の発案で出版された『事例から学ぶ少年非行』（高松少年非行研究会編著・現代人文社）
- ← 研究テーマの「少年非行」に関連する書籍が並ぶ、研究室の書棚
- ↓ 刑務所や少年院などを実際に訪ね、現場を見て感じることを重視している





# 今動いている事件に焦点をあて “現場主義”の研究スタイルを追求

岡田行雄准教授の指導の下、法学部3年生9人と4年生6人の計15人が、犯罪・非行問題の本質に迫っています

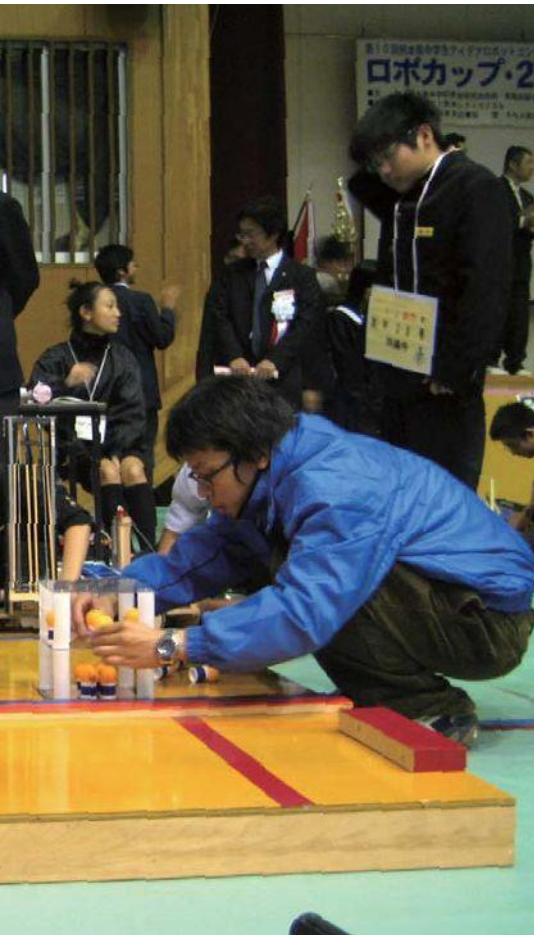


# 地域の技術科教育を支える パートナーシップ

「TIS」(Technology & Information Technology Education Society) (以下「TIS」)は、中学校技術科教諭の情報収集や研さんを目的とし、「熊本大学教育学部・技術教育講座」(以下「技術教育講座」)のサポートのもと、平成元年に組織された勉強会です。現在は、県内の中学校技術・家庭科教諭28人を中心に「熊本大学教育学部」の教職員2人、熊本県および市教育委員会の指導主事4人、「熊本大学教育学部」の学部生と大学院生7人の計41人で構成されています。勉強会は月に一度行われ、出身大学を問わず門戸を開いているのが特徴です。



「技術教育講座」の田口浩継准教授。20年間にわたり「TIS」をサポートしてきた



## 中学校技術科 教諭たちの研さんを 熊本大学がサポート

中学校で履修するさまざまな教科の中で、産業や技術の進歩に、最も敏感でなければならぬといわれる技術科。しかし、各中学校に一人だけ配属されている技術科教諭も多く、情報収集や研さんがままならないという現状があります。



平成16年より始まった「中学生ものづくりコンテスト」。中学生が木工スキルを競う

そのような状況の中、「技術教育講座」のバックアップを受け、中学校の技術科教諭たちを中心に立ち上げられた「TIS」。勉強会では、中学校の教育現場における新しい取り組みや、教材・教具の開発、さらに大学教員による最新の研究や社会動向などの情報交換が行われ、連携を深めることで、互いの教育効果を高める取り組みを行っています。

20年間にわたる「TIS」の活動から、中学生の木工スキルを競う「ものづくりコンテスト」や、幼児・小学生にもものづくりに親しんでもらう「くまもとのづくりフェア」などさまざまなイベントが生まれ、現在も運営されています。その中でも全国的な発展をみせたのが、中学生による「ロボットコンテスト」です。平成8年に「TIS」メンバーの一人である中学校の技術科教諭が「中学生にロボットを作らせてみたところ、とても喜んだ」と勉強会で報告したのをきっかけに、その年の秋に「中学生ロボットコンテスト熊本県大会」を開催。以降その輪は他県にも広がり、翌年には九州大会、2年後には福岡県で九州大会を兼ねた全国大会が開かれました。その後全国規模に発展し毎年開催されるように。中学、大学教諭そして大学生が三位一体となり、さまざまな子ども向けの技術系イベントの企画・運営を行うことで、魅力的な動きが生まれています。



幼児・小学生を対象とした「ものづくりフェア」。県北、県央、天草地区で開催される

## すべては未来を担う 子どもたちのために

「中学生ロボットコンテスト」の評価で、もつとも重視されるのが「アイデア」。競技自体の勝敗のみが評価基準ではなく、独創性が認められれば、競技で負けても大会を勝ち上がることができるシステムになっており、このように、子ども主体性やオリジナリティーに配慮されたルールづくりと大会運営のノウハウは、「T-I-S」と「技術教育講座」のメンバーが共同で構築したものが今でもベースとなっています。

県大会では、当日の会場設営や得点係



昨年の「中学生ロボットコンテスト」熊本県大会。真剣な子どもたちの姿が印象に残る

などの運営協力に「技術教育講座」の学生や大学院生も参画。コンテストの運営に取り組むことで、リアルな中学生の表情や中学校教諭による指導の現場を間近で体験することができ、将来に向けたステップアップにもつなげていきます。また、自らの将来像ともいえる現役教諭と接点ができることにより、数年後に同じ教壇に立つ上でのネットワークづくりができるというメリットもあるのです。

「大学のサポートがなければ、このような広がりにはみせなかつたでしょう」と語る熊本市立桜木中学校の酒井剛教諭は、「全九州中学校技術・家庭科教育研究協議会」口



中学の教育現場における新しい取り組みや、大学での最新の研究や動向について学び合う

ロボットコンテスト事務局長で「T-I-S」中心メンバーの一人。中学2年生の選択授業で半年間をかけ、コンテストに向けたロボットづくりに取り組んでいます。子どもたちは壁にぶつかりながらも成長し、表情がどんどん変わってゆくそうです。

「子どもたちのためにという軸がぶれないように、みんなで力を合わせていきます。ものづくりとは、本来人が変わっていく可能性を秘めているもの。その楽しさを知ってもらい、裾野を広げていきたい」そう語る「技術教育講座」の田口浩継准教授。このような交流によって各方面が切磋琢磨（せつさたくま）することもあり、熊本県の



熊本市立桜木中学校の酒井剛教諭。「普段お話できないような大学の先生方に、気軽に相談できる関係が築けています」

技術科教諭のレベルは全国でもトップレベルとなっています。教育現場のレベルアップという側面に加えて、主催する各イベントに参加するために、不登校であった生徒が登校するようになったなど、最前線の現場でしか分からない貴重な情報を中学校の先生方からお聞きし、それを教師の卵である学生に講義を通じて伝えていきます。

「T-I-S」とそれを支える「技術教育講座」。その深い連携によって、地域の中学生の教育的効果だけではなく、大学生や教員たちのレベルアップにも確実につながっています。



インタビュー

## 「二人でも多くの人を助けたい」 世界を駆ける国際救援活動

熊本赤十字病院

岡村 直樹さん

大規模な自然災害に襲われた被災地で行われる国際救援活動。「ハイチ大地震」では、日本赤十字社の医療チームが、多くの人命救助に活躍しました。今回は、国際救援に活躍する熊本大学OB・岡村直樹医師にインタビュー。混乱の中訪れたハイチでの救援活動と、医師としての思いをお伺いしました。



6種のERUの中でも「基礎保健ERU」は、外来診療・母子保健・出産・公衆衛生指導・疾病予防措置など診療所と同じ機能を持つ。母親に抱かれた愛らしい子どもの診療に、岡村さんから笑顔がこぼれる

### 壊滅的被害の中で必死の医療活動

岡村さんが勤務する熊本赤十字病院には、「基礎保健緊急対応ユニット(Basic Health Care Emergency Response Unit、以下 ERU)」が整備されています。従来救援活動といえば、医療スタッフの派遣が中心でしたが、国際救援・開発協力要員の資格を持つ医療や技術などのプロフェッショナルと、救援のために開発された資機材の二つを合わせた「ユニット」として、出動できるように整備されたものです。

大学生のころから旅が好きだったという岡村さん。医師を志し、その資格を生かして何か人々に貢献できることはないかと模索し、国際救援への道を求めました。熊本大学医学部を卒業後、2002年から熊本赤十字病院に勤務し、04年から国際医療救援部に所属。「スマトラ島沖地震」や「パキスタン北部地震」などの被災地派遣を経験してきました。

今年1月12日午後5時(日本時間13日



足を負傷した少年の皮膚移植手術を行う岡村さん。滞在時に治療を完了できず、予後を心配する患者さんも多いという。「ようやくコミュニケーションがとれるようになったところに帰国。それぞれの国に対する思いはありますね」

午前7時)ごろ、ハイチ共和国(以下ハイチ)でマグニチュード7・0の大地震が発生。首都・ポルトープランスでは、大統領官邸や国会議事堂をはじめとする官公庁や病院などが軒並み倒壊するなど、未曾有の被害を受けました。

ハイチ大地震の発生を受け、17日には日本赤十字社医療チーム第1班が現地に向け出発。医師としてハイチに向かう岡村さんの姿がありました。入国審査もままならない混乱の中、ハイチに到着。「治安が悪化し不安もありました。これまで活動した被災地との一番の違いは、首都が壊滅的な被害を受けたこと。それだけに今後の復興が心配です」。

12日後の24日には診療所を立ち上げ被災者の治療を開始。テント型の診療所では皮膚移植手術など、一日約100人前後の患者を診療するほか、感染症を予防



# International exchange Report

## 国際交流レポート／平成21年12月～22年2月

12月11日 / 大学院自然科学研究科と梨花女子大学校(韓国)との共催により「第3回学生国際会議」(ICAST 2009 Seoul)を開催(12日まで)

本研究科から89名、海外大学より67名の学生が参加し、オールおよびポスターセッションにて英語による研究成果発表や討論が行われました。

12日 / 大学院社会文化科学研究科とユネスコバンコクの共催により「The Third UNESCO-Kumamoto University Bioethics Roundtable」を開催(13日まで)

国内外から約40名参加し、英語による研究成果発表や討論が行われました。

14日 / ホーチミン工科大学一行来学

古川副学長を表敬訪問しました。

16日 / 学生交流パーティを開催

300人を超える本学留学生および学内・学外関係者が参加し親睦を深めました。



20日 / 熊本地区留学生シンポジウムを開催

第1部「熊本で学ぶ留学生の就職問題」第2部「留学生のホンネ」の2部構成で、学内外から約90名が参加しました。



平成22年

1月26日 / 留学生への自転車寄贈式(熊本県銀行協会より)

熊本県銀行協会から、熊本に在住する外国人留学生に自転車が寄贈されました。うち本学には7台が寄贈されました。



27日 / 嶺南大学校(韓国)一行来学

谷口学長を表敬訪問しました。法曹養成研究科との懇親会では、法曹養成についての意見交換が行われました。

2月4日・6日 / 国際留学フェア「QS TOP Universities Tour」(上海2/4、北京2/6)に出展

14日 / 留学生実地見学旅行(鹿児島県、宮崎県にて15日まで実施)

本学留学生107名が参加し、日本の歴史・文化への理解を深めました。



18日 / ヌサセンダナ大学(インドネシア)学長来学

谷口学長を表敬訪問しました。

### 裏方の一人一人が支える大切な命

岡村さんは、救援活動を支えるものは技術・事務・広報・通訳などの「裏方

するために約1万3000人に破傷風やジフテリアなどの予防接種を実施しました。「地震による外傷は全体の1〜2割程度。その他は頭痛や下痢、生活習慣病などが多かった。地震の影響で体調を崩した例もあったようです。物資はある程度行き渡っていても、一日三食摂れない人も多く、辛かったですね。幸い外傷に苦しむ子どもが多くなかったのは、救いでした」。



がれきの前にぼうぜんとして立ち尽くす少年。がれきの奥には無数のテントが立ち並び難民キャンプが広がる

さん「だと語ります。「医療機器や薬品の手配から搬送、ライフラインの確保など全て日本から輸送して準備します」。

バックアップがあるから、診療ができる。裏方が「命を支えている「んですよ」」。被災地での活動は、二次災害の危険も伴います。「やはり緊迫した気持ちで現地に赴きます。まず、自分が無事に帰ってこなければならぬこと。そして、一人でも多くの人に手助けになることを、肝に銘じています。自分にできることといえば、診療です。それ以上何ができるのかといえば、現状を伝えること。早く伝えれば伝えるほど、その影響も大きくなると思うので、広く被災地の姿を伝えていきたいですね」。

「医療という枠の中には、こういう道



日本赤十字社医療チーム第1班の皆さん。誰一人欠けても診療は成り立たないと、岡村さんが語るほど、その信頼は厚い。人だけではなく、資機材とライフラインの確保が救援活動の要となる

もある」と、後輩たちに一石を投じる岡村さん。世界各国の医療をサポートする救援活動は、これからも続きます。

# 卒業生ジャーナル

## Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。  
熊本県内はもとより、全国で活躍する先輩たちの  
これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して  
精勵するその姿をご紹介します。



### 藤野 怜香 Reika FUJINO



株式会社同仁化学研究所（熊本） 勤務  
理学部化学科・平成11年度卒／大学院自然科学研究科物質科学専攻博士前期課程・平成13年度修了

「専攻とは関係ない仕事をしよう」と思っていた私は、気付けば有機合成を専門とする職業に就いていました。学生のころは自由に過ごさせてもらい、勉強らしい勉強はほとんどしなかったように思います。その分、有機合成の知識が必要となった今は毎日が勉強。しかし、いったん仕事から離れると趣味の車とバイクに没頭する日々です。仕事とプライベートでメリハリをつけ、人生を楽しんでいます。思いきり遊ぶことの大切さを知ったのは、自由に過ごした大学時代があったからこそ。そして今、一生懸命働くことの大切さも知りました。これからも誰にも負けないくらい、仕事に遊びに頑張ろうと思います。



### 下原 修治 Shuji SHIMOHARA



株式会社コスモス薬品 阿蘇店（熊本） 勤務  
薬学部薬科学科・平成12年度卒／大学院薬学教育部分子機能薬学専攻博士後期課程・平成17年度修了

在学中は、朝早くから夜遅くまで研究の日々。気力と体力が必要でしたが、その分やりがいもあり、恩師・仲間を支えられながら何とか博士号を取得しました。卒業後は呼吸器疾患の薬効評価に関する職に就職。その後体調面の理由で転職し、現職に就きました。主な仕事内容は、医薬品の紹介を通して、皆さんのセルフメディケーションを手助けすること。「この前の薬、よう効いたよ!」と、目の前で笑顔を見ることができものが何よりの喜びであり励みです。私はこれまで多くの人たちに手助けしていただきました。皆さんも人との出会いを大切にしてください。きっとそれが大きな宝になりますよ。



### 福島 美紀子 Mikiko FUKUSHIMA



熊本大学医学部附属病院眼科 勤務  
医学部・平成元年度卒／大学院医学研究科外科系眼科学専攻・平成7年度修了

早いもので大学卒業後20年。先日、卒業初めての学年同窓会が開催され出席しました。卒業生122名中ほぼ半数の参加で20年ぶりに再会する方々もおられ、久方ぶりの親睦を温めました。それぞれ医師として各方面で活躍されており、異なる専門分野の状況や第一線の情報を聞くことができ、仲間として非常に頼もしさを感じました。

人とのきずなは人生における財産。若い時代に、授業や実習、クラブ活動などに一緒に研さんを積んだ仲間は、離れていても月日を経ても、助け合うことができるかけがえのない存在であることを再認識しました。



## 池田 翼 Tsubasa IKEDA



熊本朝日放送株式会社 営業局営業部 勤務  
文学部文学科・平成18年度卒／大学院文学研究科・平成20年度卒

理系の高専を卒業し熊大文学部へ編入後、文学研究科を修了。大学では“ジャズと文学”の関わりについて研究し、自分の興味のある分野を追求しました。現在は熊本朝日放送に勤務。人員の限られたローカルテレビ局では、一人一人が多様な仕事を任されるため、多角的で複合的な視野が必要とされています。在学中に理系と文系を両方経験したこと、異なる領域の要素を研究で結びつける面白さを知ったことが、今の仕事に活かされています。岐路に立ったとき、その場の合理性だけでなく自分の興味に忠実な選択が将来に結びつく可能性もあるということ、皆さんにも考えて欲しいと思います。

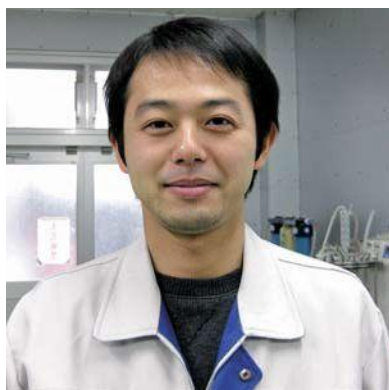


## 堀 裕子 Yuko HORI



熊本地方裁判所 修習中  
法学部法学科・平成18年度卒／法科大学院未修者コース・平成21年度修了

私は熊大法学部を卒業後ロースクールに進学し、司法試験に昨年合格して現在は司法修習生として修習に励んでいます。ロースクールでは、教授や学生と討論や論文演習を行う中で、憲法、民法、刑法、刑事訴訟法などの基礎知識を学んだほか、模擬裁判など貴重な体験をしました。司法修習生は、裁判所・検察庁・弁護士事務所のそれぞれの場所で実務を学んでいきます。そこで問われるのは、ロースクールで学んできた法律知識を実際にどのように適用して紛争を解決していくのか、という力です。私はその難しさを痛感しながらも、尊敬する実務家の方々や同期の修習生に囲まれて充実した日々を過ごしています。



## 宮川 博士 Hiroshi MIYAGAWA



霧島酒造株式会社 企画室（宮崎） 勤務  
工学部物質生命化学科・平成14年度卒／大学院自然科学研究科物質科学専攻・平成16年度修了

在学中の思い出は、陸上競技部で日々練習に明け暮れ、忙しいながらも実りのある研究生生活を過ごせたことです。陸上競技部ではたくさんの仲間とともに汗を流し、「走る」というシンプルな行動の中に多くを学び、素晴らしい思い出を作ることができました。また、研究室で学んだ発酵工学・醸造学は、現在の仕事にとっても役立っています。社会人になって振り返ると、大学生活は自分を見つめられる本当に貴重な時間だったと感じています。枠にとらわれずいろいろな経験を積んで、楽しく充実した大学生活を送ってください。



## 武藤 敦子 Atsuko MUTO



熊本大学教育学部附属中学校 勤務  
教育学部英語科・平成2年度卒

小学校の教員志望のはずが、なぜか中学校で採用。教職に就いてからも私の悪行をご存じの恩師の影が見え隠れし、ヒヤヒヤの連続です。大学時代は「黒髪祭」でクラスメイトとタコ焼き屋や居酒屋を出店し、徹夜同然で準備・運営。「草千里に初雪が降った」と聞けば講義からこっそり脱出。友達のアパートではドンチャン騒ぎ！そんな日々でした。働き始めてから気付く「ちゃんと勉強しておけば…」後悔先に立たずですが、何事にも代え難い仲間との時間、多くの失敗や楽しい経験が、教員の仕事に大きく役立っています。皆さまに温かく見守られ、支えられ、「おかげさま」が身に染みる毎日です。

## 平成21年度 学生表彰



青い鳥



舞踏研究部



### 【団体】

団体名	大会等名	種目等名	成績
青い鳥	人形劇によるボランティア活動		
舞踏研究部	第38回全九州学生競技ダンス選手権大会	団体	優勝

### 【個人】

氏名	所属	大会等名	種目等名	成績	
恒吉 宏亮	工学部	4年次	第38回全九州学生競技ダンス選手権大会	タンゴ・クイック 2種目	優勝
新名 美希	法学部	4年次			
佐伯 勇哉 山田 真梨子	工学部 薬学部	4年次	第38回全九州学生競技ダンス選手権大会	バソ種目	優勝
		4年次	第45回全九州春季学生競技ダンス大会	ルンバ種目	優勝
		4年次	第45回全九州秋季学生競技ダンス大会	バソ種目	優勝
南 貴之	教育学部	4年次	2009日本香港観光交流年 香港杯 全日本大学生英語スピーチコンテスト		3位
松本 宇生	自然科学研究科	1年次	第3回全日本学生テコンドー選手権大会	男子 -68Kg級	2位
			第7回九州学生テコンドー選手権大会	男子 -68Kg級	優勝
野口 嘉津馬	法学部	3年次	第3回全日本学生テコンドー選手権大会	男子 +87Kg級	3位
			第3回全日本テコンドー選手権大会西日本地区大会	男子 -87Kg+87Kg合同級	2位
			第7回九州学生テコンドー選手権大会	男子 +68Kg級	優勝
田上 綾子	教育学部	4年次	第10回九州学生馬術女子選手権大会		優勝
三宅 勝幸	教育学研究科	2年次	第64回九州陸上競技選手権大会	男子 400m	優勝
中尾 有沙	教育学部	4年次	2009日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 三段跳	3位
			第37回九州学生陸上競技選手権大会	女子 走幅跳	優勝
中村 絵美	教育学部	4年次	第37回九州学生陸上競技選手権大会	女子 400mH	優勝
			第59回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×400mR	優勝
堤 詩織	教育学部	3年次	第37回九州学生陸上競技選手権大会	女子 800m	優勝
			第59回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×400mR	優勝
大庵 樹里	教育学部	3年次	第59回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×400mR	優勝
泉 智子	教育学部	3年次	第59回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 走高跳	優勝
地原 理恵	教育学部	1年次	第59回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×400mR	優勝

## 「熊本大学関西リエゾンオフィス」開所式・キックオフシンポジウム



熊本大学では昨年度設立60周年を迎え、本学の研究・教育の成果の産業界への移転を通じて社会貢献を加速していくことを目指し、東京、関西の大都市への広報強化を展開しています。こうした中、本学工学部を中心に、関係者の多大なご支援・ご協力により、関西地区における本学の活動拠点として、昨年10月「クリエイション・コア東大阪」内に「熊本大学関西リエゾンオフィス」を開設しました。本オフィスは、全国の企業において現役で活躍する熊大卒業生のネットワークを駆使して、九州の産業活動と関西の特徴ある高度技術の連携を図り、両者の大きな発展を仲介、支援する拠点として、今後活動をさらに展開していく予定です。



開設にあたり、3月13日(土)に「クリエイション・コア東大阪」において、「熊本大学関西リエゾンオフィス」開所式およびキックオフシンポジウムを開催。開所式では、谷口学長、両角工学部長や熊本大学工業会の岡村会長、大阪府商工振興室ものづくり支援課の山中課長らによるテープカットが行われました。

開所式に続いて行われたシンポジウムでは、谷口学長の講演をはじめ熊本大学の中核的研究の中から、大学院自然科学研究科の秋山教授による「G-COE：パルスパワー研究の国際展開」、同研究科の河村教授による「次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発」、イノベーション推進機構の大串教授による「本学における産学連携」の講演が行われました。

会場内では、参加者や熊大卒業生、関西企業の方々、熊大研究者との間で熱心な意見交換が行われ、各研究および大学への関心の高さがうかがえました。

## 昭和六年の天覧標本 ～子ども達が記録した豊かな熊本の自然～



陸軍特別大演習・地方行幸の際、昭和天皇に熊本の動植物をお見せするため行われた「聖駕奉迎博物採集動員」。この時作成され、昭和天皇がご覧になった標本が「天覧標本」です。50万人を超える人々が採集した93万点の標本の中から、植物や鉱物など、貴重な資料を一部公開します。

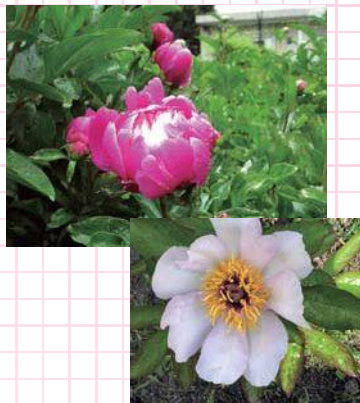
また、開催期間中、関連企画として博物学に関する講座や講演会も行います。詳しくは下記までお問い合わせください。

【問い合わせ】  
五高記念館  
Tel.096-342-2050

日 時／開催中～5月31日(月)  
10:00～16:00(入場は15:30まで)  
休館日／5月11日(火)・18日(火)・25日(火)  
場 所／五高記念館  
対 象／一般  
※入場料不要



## 薬用植物観察会



熊本大学構内の植物園や立田山を散策し、樹木の歴史なども学びながら、薬用植物、春の花々、植物の息吹を観察します。

日 時／4月18日(日)9:00赤門前集合  
対 象／どなたでも可  
※事前申込不要・要保険代100円  
※弁当、水筒持参

【問い合わせ】  
薬学教育部薬用植物園 矢原  
Tel.096-371-4381  
E-mail:yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp

## みなまた環境マイスター養成プログラム 「みなまた環境塾」 第二期生成果発表会

本学と水俣市が協働で実施する「みなまた環境塾」での学習の成果を、省エネルギー・金属リサイクル・水士汚染の浄化など8テーマに分かれて発表します。

日 時／4月17日(土)14:00～18:00  
場 所／水俣市総合もやい直しセンター  
3階会議室

対 象／一般、環境・リサイクル系企業・団体、行政関係  
※要事前申込(当日申込可)・参加費不要

【問い合わせ】  
自然科学系事務部  
プロジェクト支援室 前田  
Tel.096-342-3835  
URL <http://ecomot.org/>(みなまた環境塾)

## 平成22年度公開講座

講座名	対象者	開講日	受講料
陶芸教室 ～土と親しみ、つくる喜びをもとめて～	一般社会人・高校生・障がい児	5月15日(全15回)	10,200円
ワーグナー芸術への招待 ～《ニーベルングの指環》第1部・第2部～	一般社会人・学生	6月 5日(全13回)	10,200円
リーダーシップ・トレーニング	一般社会人・組織・団体のリーダー(熊本会場) 組織・団体のリーダー(東京会場)	熊本会場:6月10日 東京会場:8月24日 (各会場全3回)	9,900円
教師が使えるカウンセリング講座	教職関係者、教師、保育士、心の相談員、子育てサポーター等。その他 カウンセリング学習して、子どもの心身の成長に貢献したい人	6月12日(全3回)	9,900円
看護倫理セミナー2010 ～倫理感性を磨き、判断力と実践力を高めよう～	家族が療養生活を送っておられ倫理的課題に悩んでいる方	6月12日(全2回)	8,700円
ラフカディオ・ハーンと夏目漱石の魅力	中学生・高校生・学生・一般社会人	6月19日(全6回)	7,200円
特別支援教育コーディネーターのためのサバイバルスキル ワークショップ	幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校において、特別支援教育コーディネーターを担当されているか、または、コーディネーターの業務に関心のある人	6月19日(全6回)	9,900円
世相と民俗文化	高校生・大学生・一般社会人	7月 3日(全4回)	6,200円
映画公開講座 "映画にもっと光を"	一般社会人・学生	7月 3日(全6回)	7,200円
心を動かす健康メッセージの届け方 健康づくりのためのヘルスコミュニケーション	自治体保健師、産業保健師、看護教諭、その他健康に関する啓発や 教育の取り組みをされている方々	7月10日(全5回)	8,700円
陸上競技教室 ～速く走る秘密～	小学生・中学生・高校生・指導者や教員、コーチなど	7月25日(全8回)	8,200円
先生のための「食育」講座 ～各分野で活躍する食育に携わる方々のために～	幼稚園・小・中学校教職員、高等学校教職員、養護学校教職員、保健師、 保育士、栄養士、各分野で食育に携わる方、他専門職業人を志す方、 教員を志す学生、食育に興味をお持ちの方	8月10日(全13回)	8,700円
健康で幸せなおもてなしを考えよう	一般社会人	9月 4日(全6回)	9,900円
看護研究のための質問紙(アンケート)調査法の基礎と統計 解析講座 ～エクセルによる統計解析～	質問紙(アンケート)調査法を用いた看護研究を行いたいと考えている人	9月11日(全2回)	8,700円
世界の阿蘇を科学する(ジオパークの魅力)	高校生・大学生・一般社会人	9月18日(全4回)	8,200円
看護診断セミナー2010 ～NANDA、NOC、NICのリンケージ～	臨床現場で看護診断する看護職または看護診断を教える看護教師、 看護診断を学びたい人	9月25日(全2回)	8,700円
大正くまもと文学散歩	高校生・大学生・一般社会人	10月 2日(全5回)	8,200円
看護職教育研修の企画力を磨くワークショップ2010 ～人材確保促進下の教育研修を考える～	看護に関する研修の企画を担当する看護職または研修や授業担当者、 看護教師	11月27日(全2回)	8,700円

公開講座の詳細につきましては、政策創造研究教育センターホームページをご覧ください。下記担当までお問い合わせください。

【問い合わせ】

研究・国際部社会連携課 公開講座担当 Tel.096-342-3121 Fax.096-342-3239  
E-mail:manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp URL <http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>

## 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.9 (平成21年12月1日～平成22年2月28日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の方々から、平成22年2月28日現在で、総額約2億8,798万円のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成21年12月1日から平成22年2月28日までの間にご入金を確認させていただきました個人149名、40法人・団体等のご寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。

公開をご希望されないご寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、ご寄附者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮でございますが、募金推進室(Tel.096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※( )内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【200万円】 東レ株式会社(400)	【100万円】 前田 慶之助
【50万円】 川島 史郎	【30万円】 小田切 優樹(50)
【15万円】 石櫃 鴻吉(20)	
【10万円】 松岡 正裕 吉田 勇(30)	
アイシン九州株式会社	内村酸素株式会社
株式会社井関熊本製造所	株式会社九電工熊本支店
九州三和鉄軌株式会社	株式会社同仁化学研究所
九州三和鉄軌株式会社	熊本空港ビルディング株式会社
有馬 英俊(15) 西野 宏(15)	
【5万円】 田島 恒美 冨永 陽一	沼田 勝之 向井 佑一 渡邊 美秋
【5万円未満】	

### 2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[ ]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

石黒 康弘	岩永 研一[2]	上塚 昭逸	大家 さとみ	尾崎 功	小野 弘	角井 澄世	梶並 浩三
金田 昭久	川田 賢司	河内山 和弘	川鍋 宏明	北野 邦俊	栗山 康弘	黒川 昇	酒井 宣夫
坂田 満生[3]	坂本 博重	崎田 裕己	佐久田 朝市	佐々 理[2]	佐々まゆみ	楢村 保則[2]	竹澤 栄朗
田崎 権一	伊達 一馬	塘 正弘[2]	永井 孔司	橋本 康司	馬場 秀夫[2]	濱崎 欣明[2]	東 龍一
東村 一東[2]	久留 芳枝[2]	平下 尚	平山 孝次	福田 格	別府 トシ子[4]	穂積 肇	前田 篤志[2]
牧 泰臣	松尾 房義	松永 健二	松見 里美	宮坂 龍一[2]	宮本 郷美	村山 伸樹[3]	森 信子[2]
矢野 秀樹[2]	山縣 カズヨ[2]	夕田 悠久子	横山 武弘	鷲山 正二	渡辺 祐治[2]	濟陽 慶和	
株式会社青山製作所熊本工場	株式会社RKKコンピューターサービス	株式会社ケミカル同仁	株式会社イケダ科学	株式会社三勢	株式会社キューネット	株式会社サンワハイテック	
株式会社熊本日日新聞社	株式会社 談[3]	株式会社 パワーバンクシステム	株式会社ツカサ創研	株式会社肥後銀行	株式会社鶴屋百貨店	株式会社吉永産業	
株式会社玉名製作所	熊本酸素株式会社	西部電気工業株式会社	クリタ・ケミカル熊本株式会社	東京エレクトロン九州株式会社[2]	財団法人化学及血清療法研究所	西日本システム建設株式会社[2]	
株式会社野毛電気工業九州事業部	富士電機ホールディングス株式会社	富士電機工業株式会社	東京エレクトロン九州株式会社[2]	富士フィルム九州株式会社	南九州コカ・コーラボトリング株式会社		
九州電機工業株式会社	ロントツ株式会社						
サンコーコミュニケーションズ株式会社							
ネクサス株式会社							
有限会社坂本石灰工業所							

### 3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

個人81名、1法人・団体等

#### 【お詫び訂正】

前号(vol.35)において、ご寄附者のお名前に誤りがありました。

ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。

ご寄附者のお名前 (誤)坂本 玲奈 → (正)坂本 鈴奈

## 熊本大学基金 寄附者への副賞を製作しました。

熊本大学基金にご寄附をいただいたすべてのご寄附者の皆様に、学長からの感謝状を贈呈しております。また、称号会員の皆様には、称号の種類に応じた副賞を併せて贈呈することとしております。

このたび、特別栄誉会員及び栄誉会員(個人を除く)のご寄附者に対して、感謝状と併せて贈呈する副賞を製作いたしました。

勝海舟筆 一行書「入神致用」

この言葉は、『易経』に由来するといわれ、「人が、学問や技芸を磨き、人格を高めて精進すれば、大きな働きをすることができる」という意味を表しています。



(所蔵 熊本大学五高記念館)

# また、「自分」はじめよう。

熊本大学では、地域に開かれた大学として、本学が持っている人文・社会科学系、自然科学系、生命科学系の各分野における教育研究成果を活かした様々な学習機会を提供しています。

大学で、生涯学習を。

4月より順次開講

## 公開講座

キャリアアップのための専門講座から生活の質を上げる教養講座、趣味の講座に至るまで、バラエティー豊かな講座を受講できます。  
(※詳細は本誌21ページをご覧ください)

本学生とともに学ぶ。

## 授業開放

熊本大学の「授業開放」は、本学の正規授業を学生とともに受講できる制度です。前学期・後学期の授業に合わせて年2回、受講者を募集しています。

(※平成22年度前学期申し込みは受付終了しました)

【公開講座・授業開放に関するお問い合わせ】

熊本大学 研究・国際部社会連携課

TEL.096-342-3121 FAX.096-342-3239

みんなが集う場でありたい、みんなが旅立つ場でありたい。



国立大学法人  
**熊本大学**

〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-39-1 TEL.096-344-2111(代)

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

■黒髪キャンパス ■本荘・九品寺キャンパス ■大江キャンパス

[オフィス] 東京リエゾンオフィス・関西リエゾンオフィス・上海オフィス・韓国KAISTオフィス